

症例解析演習Ⅱ

Pharmacotherapy Case Study Ⅱ

医療科目 4年/後期 1単位 必修科目

科目責任者 大野 恵子(薬剤情報解析学研究室)

■ 教育目的

薬物治療学Ⅰ～Ⅴ及びその他の関連する医療薬学系統講義で学んだ知識を模擬症例の薬物治療に応用し、より実践的な知識として理解を深める。すなわち、薬剤師の視点から、目の前の患者が有する問題点を解決するために、適切な薬を適切な用法・用量で使用し、治療の有効性と安全性を評価し、必要に応じて治療プランを修正する一連のプロセスを学ぶ。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-③、YD-④、YD-⑥】

■ 学習到達目標

1. 代表的な疾患の症例において、薬物療法の評価に必要な患者情報を収集することができる。(知識・技能)
2. 代表的な疾患の症例において、薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価、及び薬学的管理の立案について討議を行い、SOAP形式等で適切に記録できる。(知識・技能)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前に配布される症例に関して、薬物治療学等の講義内容を復習し、必要に応じてガイドラインや医薬品情報等を参照して予習レポートを作成する(60分以上)。

復習：当日提出したグループレポート等を見直し、各自でリフレクションペーパーを作成する(30分以上)。

■ 授業形態

課題解決型学習、ディスカッション・ディベート、グループワーク、講義

■ 授業内容

本演習は、症例解析演習Ⅰと同様に、Small Group Discussion (SGD)により薬物治療評価演習を行う。1・2限連続授業であるので、基本構成は Session 1 (50分間)、10分休憩後、Session 2(50分間)、10分休憩後、Session 3 (50分間)とする。前週に提示された模擬症例(全6疾患)について、適切な情報源を参照しながら各自予習を行う。当日の演習にて学生間で意見交換(SGD)をしながら、模擬症例における薬物治療上の問題を挙げ、主要な問題点に対して根拠に基づいた望ましい薬物治療法とそのモニタリング計画を立案し、その内容を SOAP形式で記録する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1,2	オリエンテーション	薬物治療評価の概要	E2(11) ① 1～3, F(3) ① 2, ② 1, ③ 1～3, ④ 1～3
3,4	ベーシック薬物治療評価 1	薬物治療評価演習	同上
5,6	ベーシック薬物治療評価 2	薬物治療評価演習	同上
7,8	アドバンスド薬物治療評価 1	薬物治療評価演習	同上
9,10	アドバンスド薬物治療評価 2	薬物治療評価演習	同上
11,12	アドバンスド薬物治療評価 3	薬物治療評価演習	同上
13,14	アドバンスド薬物治療評価 4	薬物治療評価演習	同上
15	特別講義	米国イリノイ大学シカゴ校薬学部教員による特別講義	F(3) ③ 1～3, ④ 1～3

■ 授業分担者

池上 洋二、石川 洋一、石橋 賢一、大野 恵子、榎山 暁史、三田 充男、山崎 紀子、菅野 敦之、野澤 玲子、安武夫、田中 靖子、松本 邦洋、宮沢 伸介、鈴木 陽介、高橋 雅弘、永井 純子、小田 絢子

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

SGDを通じて学生相互に予習課題についての理解を深める。演習時間内に行う解説等により、随時、フィードバックを行う。予習レポート(10%)、相互評価(10%)、ラーニング・ポートフォリオ(30%)、学期末試験(50%)で評価する。

■ 教科書

Dynamed (学内専用：my-portからアクセス)、Micromedex DRUGDEX (学内専用；my-portからアクセス)、医薬品集(『治療薬マニュアル』(医学書院)、『今日の治療薬』(南江堂)、『治療薬ハンドブック』(じほう)など)

■ 参考書

各種専門学会が作成する診療ガイドライン(最新版)、医薬品添付文書等の医薬品情報 (PMDA web サイトから入手可能)、Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 10th (LWW)、Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 10th (McGraw-Hill)

■ その他

相互評価、ラーニング・ポートフォリオは、ルーブリックにて評価する。